



伊藤ハム米久ホールディングス株式会社
ITOHAM YONEKYU HOLDINGS INC.

伊藤ハム米久グループ
CSR報告書2017

「伊藤ハム米久グループ CSR 報告書 2017」発行にあたって

私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します

2016年4月1日、伊藤ハム株式会社と米久株式会社は、経営統合し、持株会社である「伊藤ハム米久ホールディングス株式会社」が発足しました。

両社がこれまで培ってきた技術やノウハウなどの強みを生かし、お客様に価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを皆様に伝えていきたいと考えています。

伊藤ハム米久グループでは、CSR活動の取り組みを通じ、お客様、従業員、株主、お取引先、地域社会など、皆様から信頼される企業であり続けたいと考えています。

表紙デザインについて

伊藤ハムグループと米久グループ両社の融合・成長・発展をそれぞれのコーポレートカラーである、3色(赤・青・黒)で表現しています。

両社のシナジー効果を最大限に発揮し、飛躍していきたいという想いを込めています。



編集方針

伊藤ハム米久グループとして初めて発行する本報告書は、伊藤ハム・米久両社のこれまでの歩みや、CSR活動の取り組みをすべてのステークホルダーの皆様にご理解いただき、よりコミュニケーションを深めるために作成しています。

対象範囲

報告対象期間

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では上記期間以外の取り組みについても報告しています。

報告対象組織

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社、伊藤ハム株式会社、米久株式会社、他国内グループ会社
※環境データの対象範囲は、別途記載しています。

参照ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」
GRI「サステナビリティレポートガイドラインスタンダード」

本報告書についてのお問い合わせ先

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 CSR部 CSR企画室
〒153-8587 東京都目黒区三田1丁目6番21号 アルト伊藤ビル
TEL: 03(5723)8662
URL: <http://www.itoham-yonekyu-holdings.com>
E-mail: eco@itoham.co.jp
発行 2017年9月

目次

Page

- ① 編集方針 など
- ② 目次
- ③ 社長メッセージ
- ⑤ 事業概要
- ⑦ 伊藤ハム・米久の歩み
- ⑨ 事業・商品のご紹介
- ⑪ ガバナンス
- ⑬ 社会
- ⑮ 環境
- ⑰ グループ各社の取り組み



CSR 情報サイトについて

伊藤ハム米久グループのCSR活動内容については、各社Webサイトにて開示しています。

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社



<http://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/index.html>

伊藤ハム株式会社



<http://www.itoham.co.jp/corporate/env/index.html>

米久株式会社



<http://www.yonekyu.co.jp/company/csr/>



伊藤ハム米久ホールディングス株式会社
代表取締役社長

宮下 功

変革への挑戦心を持って大いなる飛躍を

社会経済情勢がめまぐるしく変化する厳しい事業環境下、伊藤ハムと米久は、これまで互いに培ってきた技術やノウハウなどの強みを持ち寄り、シナジー効果を発揮することで成長し、社会により大きく貢献したいとの思いから 2016 年 4 月に経営統合いたしました。

両社独自のブランド力を堅持し、安全・安心で高品質な商品、そしてお客様にご満足いただけるサービスを提供し続けることで、健やかで豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えております。

弊社グループでは、「フェアスピリットと変革への挑戦を大切に、従業員とともに持続的に成長する食品リーディングカンパニー」をビジョンに掲げた「中期経営計画2020」を 2016 年 11 月に発表いたしました。全従業員が業務の変革に挑戦心を持ち、ひとつひとつの施策を着実に進行することで、成果を積み上げてまいります。

そして、地球環境への配慮、社会貢献活動などを積極的に推進し、企業としての社会的責任 (CSR) を十分に果たし続けたいと考えています。

今後も、コンプライアンスを最優先し企業価値のさらなる向上を目指し、グループ一丸となって取り組んでまいり所存ですので、皆様のより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤ハム米久グループ
中期経営計画2020

売上高 **1** 兆円

経常利益 **300** 億円

伊藤ハム米久グループ

2016年4月統合



yonekyu

目指す企業像

グループ理念

私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します

ビジョン

フェアスピリットと変革への挑戦を大切に、従業員とともに持続的に成長する食品リーディングカンパニー

行動指針

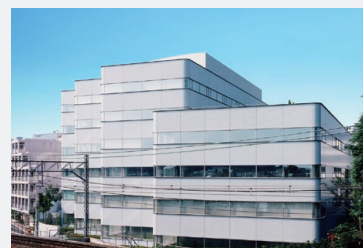
- 安全安心と品質の追求による、価値ある商品とサービスの提供
- 有言実行の徹底による信頼関係の構築、強化
- 全員参加の闊達な意思疎通と相互理解による能力開発と育成
- コンプライアンスを最優先とした、公明正大で透明性のある行動
- 地球環境に配慮した事業活動の推進

事業概要

Business Overview

伊藤ハム米久グループの会社概要、組織図、国内のグループ主要拠点についてご紹介しています。

商 号	伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 (英文名：ITO HAM YONEKYU HOLDINGS INC.)
本社所在地	東京都目黒区三田1丁目6番21号
設 立	2016年4月1日
代表取締役社長	宮下 功
事 業 内 容	食肉加工品の製造及び販売、食肉の加工及び販売、調理加工食品、惣菜類の製造及び販売などを行うグループ内傘下子会社の経営管理及びこれに付帯する一切の業務
資 本 金	300億円
従 業 員 数	7,644人(連結従業員数2017年3月31日現在)



伊藤ハム米久ホールディングス本社

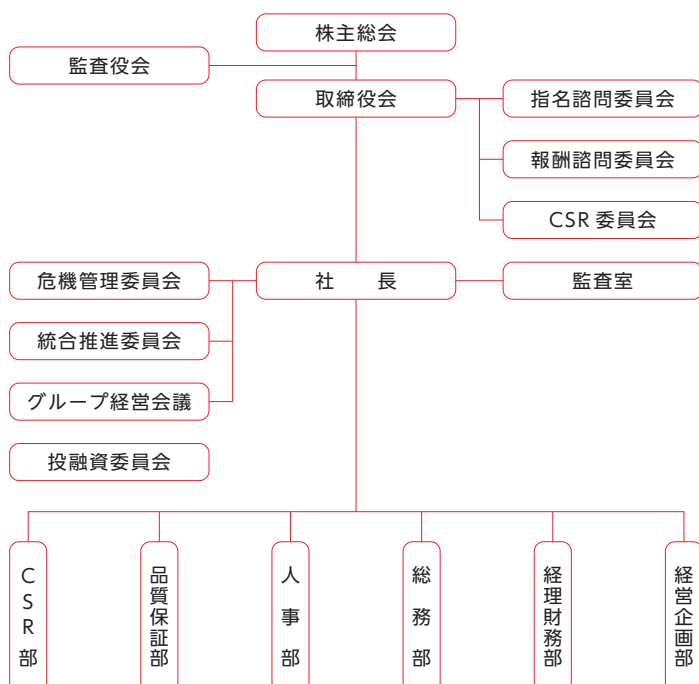


伊藤ハム本社



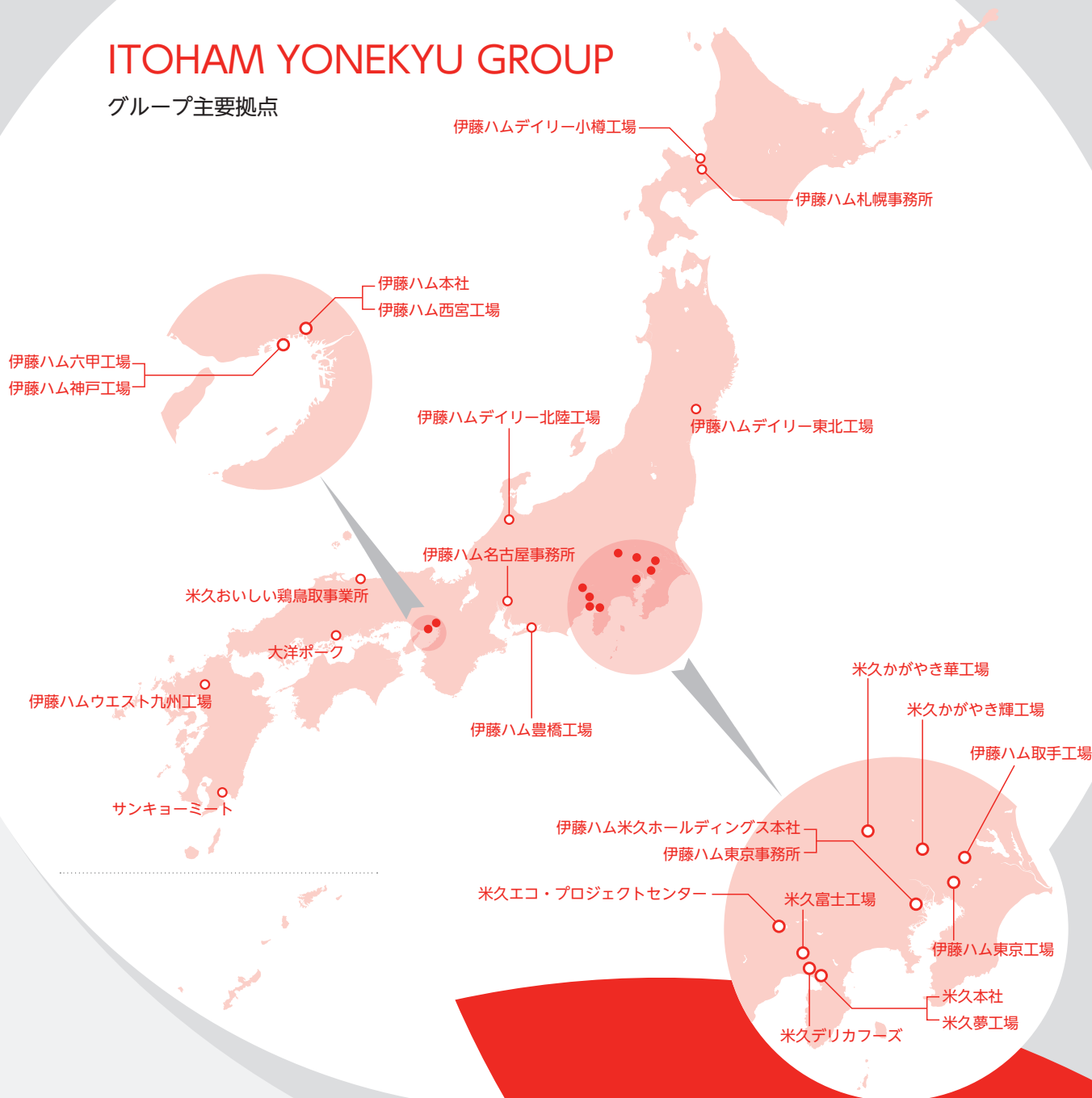
米久本社

組織図



ITOHAM YONEKYU GROUP

グループ主要拠点



海外主要拠点
 アンズコフーズ株式会社
 イトウハムベタダグロフーズ株式会社
 YONEKYU U.S.A.,INC.

伊藤ハム・米久の歩み

History of the Group

1934



「セロハンウインナー
(現ポールウインナー)」
開発

●セロハンウインナーとは
伊藤傳三創業社長がセロ
ハンの“裁ち屑”を独特の
糊で筒状のケーシングとし
て再利用。この中に豚肉を
主原料としたソーセージを
充填・加工し1本10匁
(37.5g)のスティック型商
品として開発したものです。

創業者伊藤傳三の個人経営
として、大阪府で「伊藤食品
加工業」を創業

1946

1958

ハム・ソーセージの原料肉とし
てマトンの使用技術を開発

●独自の技術

当時「臭くて食べられない」と酷評さ
れた羊肉を生産国ニュージーランド
からいち早く輸入。独自の技術と水
洗による脱臭によって安くおいしい
“プレスハム”を開発。誰でも手
軽に食べられる「ハム」が普及する
ことになりました。



兵庫県神戸市灘区備後町において、
「合名会社伊藤食品工業」を復興

1959

東京都目黒区に
目黒工場を新設。
東京に進出

1974



「スキンレスウインナー
(現パルキー)」発売

1979



「チーズイン」を発売

1985



「手造りウインナー・
バイエルン」発売

1928

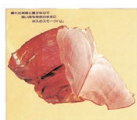


1965

yonekyu

静岡県沼津市で食肉加工と
卸を目的として庄司清和が
「米久食品」を個人創業

東京オリンピックの1年後
に創業。日本の近代食肉販
売業の礎を築いた食肉卸の
名門、東京都港区の株式会
社米久に勤めながら修行に
励み、約1年半後、のれん
を分け与えられるかたちで
独立しました。



「スモークハム」
「ダルマスモークハム」発売

●ロングセラー商品の誕生

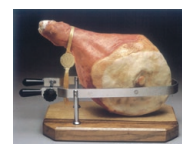
三つ割にした豚もも肉の塊を
いぶして仕上げた「スモーク
ハム」を業務用商品として発
売。さらに、コンシューマー市
場にも拡大し、“だるま”を連
想させる形状「ダルマスモーク
ハム」の名で親しまれた商品
がロングセラーになりました。



初のコンシューマー
ソーセージ
「フランQ」発売

製造はじっくり、販売先
へはより早く商品のフレ
ッシュさをアピールし
た、米久初のコンシュー
マーソーセージを発売。
この年、初めての消費者
キャンペーンを展開しま
した。

業務用商品
「肉だんご1kg」発売



業界初の生ハム専用
工場を新設



「御殿場高原あらびきポーク」
発売

●米久を代表する商品

味には定評のあったあらびき
タイプのウインナーを、改め
て米久を代表する商品に育
てようと発売した「御殿場高
原あらびきポーク」。高級感や
何より富士山を連想させるこ
とからこのネーミングとなり
ました。

1972

1977

1981

1990



1928 ~

1988

「ポークピッツ」発売

●世界一小さなウインナー開発
マーケティングリサーチを行った結果、調理の簡便性を求める消費者が多いことが判明しました。火が通りやすく、どんな料理の具にも使える、世界で一番小さいウインナー「ポークピッツ」を開発しました。



2009

三菱商事株式会社・伊藤ハム株式会社・米久株式会社が包括業務提携契約を締結

2010



「アルトバイエルン」リニューアル発売

2013



「神戸」シリーズが「KOBE スペシャル PRパートナー」に認定

2016

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社設立



「スーパー Boo」発売



「豚肉の味噌煮込み」発売

2009

三菱商事株式会社・伊藤ハム株式会社・米久株式会社が包括業務提携契約を締結



「大地のハーブ鶏」が地鶏・銘柄鶏食味コンテスト優秀賞受賞

2016

1965 ~

1996



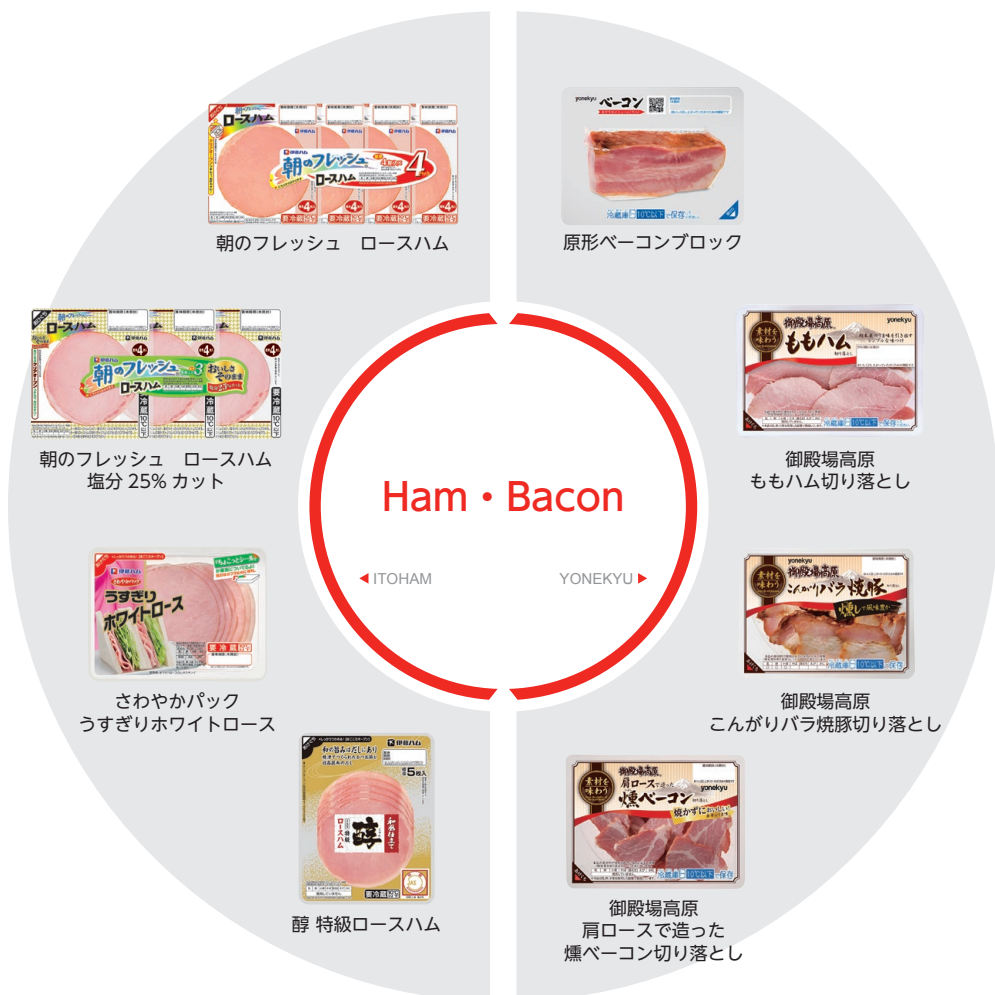
事業・商品のご紹介

Main Business Segments

伊藤ハム、米久それぞれ独自のブランド力を堅持し、安全・安心で高品質な商品、そしてお客様にご満足いただけるサービスを提供し続けます。

ハム・ベーコン ▶

サラダやサンドイッチなどいろいろな料理によく合います。また、便利な少量使い切りパックや塩分25%カットなど、お客様のニーズに応えた商品ラインアップ。



調理品 ▶

手軽な簡単調理で、お弁当やおやつ、夕食などの一品に。素敵な食卓を演出します。





The GRAND
アルトバイエルン



御殿場高原
あらびきポーク



ポークビッツ



あらびきフランク



ロイヤルポール
ウインナー



超あらびきソーセージ



ベルガヴルスト
ブラックペッパー



超あらびきフランク

Sausage

◀ ITOHAM

YONEKYU ▶

◀ ソーセージ

お弁当や朝食はもちろんのこと、おやつやおつまみなど、いろいろなシーンをサポートします。



和牛 交雑牛



岩手めんこい黒牛



鹿児島黒豚 黒の匠



瀬戸内六穀豚

Fresh Meat

◀ ITOHAM

YONEKYU ▶



薩摩いも鶏



大地のハーブ鶏

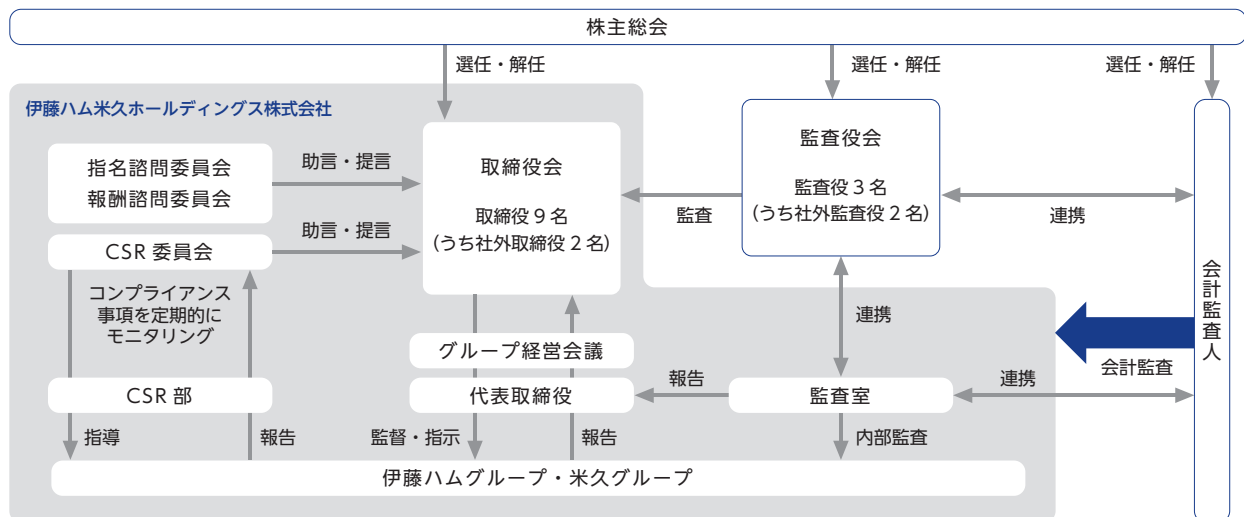
◀ 食肉事業

安全・安心とおいしさとことんこだわり、健康で高品質なお肉をご提供します。

透明性の高い経営を目指して

当社は、「グループ理念」「ビジョン」「行動指針」に基づき、企業としての社会的責任（CSR）を十分に果たすために、また、すべてのステークホルダーから信頼を得るために、当社グループ全体に監督・監視など内部統制機能を充実させた経営組織体制を整備し、的確な経営の意思決定とスピーディな業務執行を行ってまいります。

コーポレート・ガバナンス体制図



● コーポレート・ガバナンス基本方針 http://www.itoham-yonekyu-holdings.com/ir/pdf/cg_report/cg_201706.pdf

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、コーポレートガバナンスの基本的な考え方として、「コーポレートガバナンス基本方針」を定め、中長期的な企業価値向上のために、コーポレート・ガバナンスを確実に実現し、透明性の高い経営を目指しております。

経営の客観性という観点から、独立性の高い社外役員として社外取締役2名を選任しており、さまざまなステークホルダーにも配慮しながら、取締役会における独立した中立的な立場での意見を踏まえた議論を可能にする体制を取っております。

また、監査役会設置会社である当社は、取締役の指名・報酬等にかかわる取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化するため、社外取締役を含む取締役等で構成した任意の指名諮問委員会及び報酬諮問委員会を設置し、経営の透明性を確保しております。

そのほか、社外有識者を委員長とするCSR委員会を取締役会の諮問機関として設置し、第三者の目で当社グループのCSR・コンプライアンス体制をモニタリングし、必要に応じて取締役会に提言しております。

内部統制システムの整備

当社は、業務の適正を確保するため、内部統制システムの整備に関する基本方針を定め、コンプライアンス、財務報告の適正性の確保、リスクマネジメント等のための当社グループの体制構築に努め、その運用状況を開示しております。

また、体制、規程の整備とあわせて、継続した従業員教育を行い、その実効性の向上に努めております。



コンプライアンス推進プログラム

コンプライアンス講習・委員制度

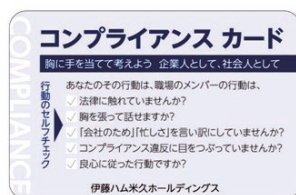
伊藤ハム米久グループでは、全従業員を対象にコンプライアンス講習を行っています。2016年度は、「コミュニケーションを大切にする職場（チーム）を作ろう」「ハラスメント」「運転マナー」などをテーマとした講習を開催しました。また、伊藤ハムグループでは、2009年度より、「各職場の業務に根付いたコンプライアンスの推進と定着」を目的としたコンプライアンス委員制度を設け活動しています。（2017年度より米久グループでも導入）



コンプライアンス講習

社内・社外相談窓口

従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として、「社内相談窓口」を伊藤ハム米久グループ内に設置し、「社外相談窓口」を社外弁護士に委託しています。また近年、職場での人間関係、コミュニケーションに関する相談が増えたことを受け、相談員の傾聴力研修を実施し、あわせて、従業員教育にコミュニケーションスキルの向上を目的とした講習を取り入れています。



有馬 紀子（物流）

コンプライアンス委員の声

- 毎月定期的に活動をしていくことで、職場のメンバーが少しずつですが、コンプライアンスとは自分と関係することなのだと、思ってもらえていると思います。
- 朝礼などでコンプライアンス関連の情報を共有したり、部門で勉強会を行っており、意識が高まっていると思います。
- 職場内のコンプライアンス意識の向上を感じています。
- メンバー全員のベクトルをひとつに合わせることができて、やりがいを感じました。
- メンバー同士が注意し合う場面もあり、とてもうれしかったです。

安全・安心への取り組み

伊藤ハム米久グループでは、お客様に安心してお召し上がりいただける商品をお届けし、最も信頼される食肉加工メーカーになることを目指しています。

外部機関による評価

伊藤ハム米久グループの生産施設では HACCP や ISO22000・9001 の外部認証を取得しています。社内監査のほか、外部認証機関によるマネジメントシステム検証などを通じて、さらなる改善に取り組んでいます。



HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)

アメリカで開発された食品の安全性を確保するための方法で、国際的にも広く認められており、日本では厚生労働省が総合衛生管理製造過程として承認しています。

ISO (International Organization for Standardization)

ISO は国際的な規格を策定する団体です。

ISO22000

消費者へ安全な食品提供を可能にする食品安全マネジメントシステム

ISO9001

顧客満足度向上を目指すための継続的な改善を実現する品質マネジメントシステム





▼伊藤ハム 安全・安心システム
<http://www.itoham.co.jp/farm/enzen/tracea/index.html>

トレーサビリティの徹底

国産牛肉

伊藤ハム米久グループでは、牛トレーサビリティ法を遵守して牛1頭につき1つの個体識別番号が付けられ、仕入・販売するすべての国産牛にひもつけ履歴が分かる管理をしています。

また、伊藤ハムグループ、米久グループのホームページでは、個体識別番号を入力して牛の生産履歴を調べることができます。

海養鶏

米久グループでは、「海養鶏」に関し、原料原産国における情報から日本国内での製品加工情報に至るまで、履歴を管理するシステムを運用しています。



▼米久トレーサビリティシステム
<http://trace.yonekyu.co.jp/trace/nactl?reqid=TRC0000>

海養鶏の生産の流れ



海養鶏とは・・・

輸入鶏肉原料を使用し、国内加工場で加工する際、ハーブエキスなどで鶏肉独特の臭いを抑え、やわらかく食べやすい鶏肉に仕上げたものです。隠し味に天然ミネラルを含む塩「ハマネ(深層海塩)」を使用することで旨味も増えています。海養鶏は製法特許取得済みの製品です。

豊かな地球環境を

伊藤ハム米久グループは地球環境に配慮した事業活動を行い、人々のより豊かなくらしづくりに貢献します。

食品廃棄物のリサイクル

自社工場や関連企業から排出される食品廃棄物をリサイクルして、良質な肥料を年間約 500t 生産しています。作られた肥料はさまざまな用途で使用され、環境負荷低減に貢献しています。

● 乾燥工程

脱水污泥、動植物性残渣（ざんさ）、生ゴミを乾燥機へ投入し、半日乾燥処理を行います。乾燥品として出荷用ボックスに詰め、米久エコ・プロジェクトセンターへ運搬します。



米久夢工場乾燥機

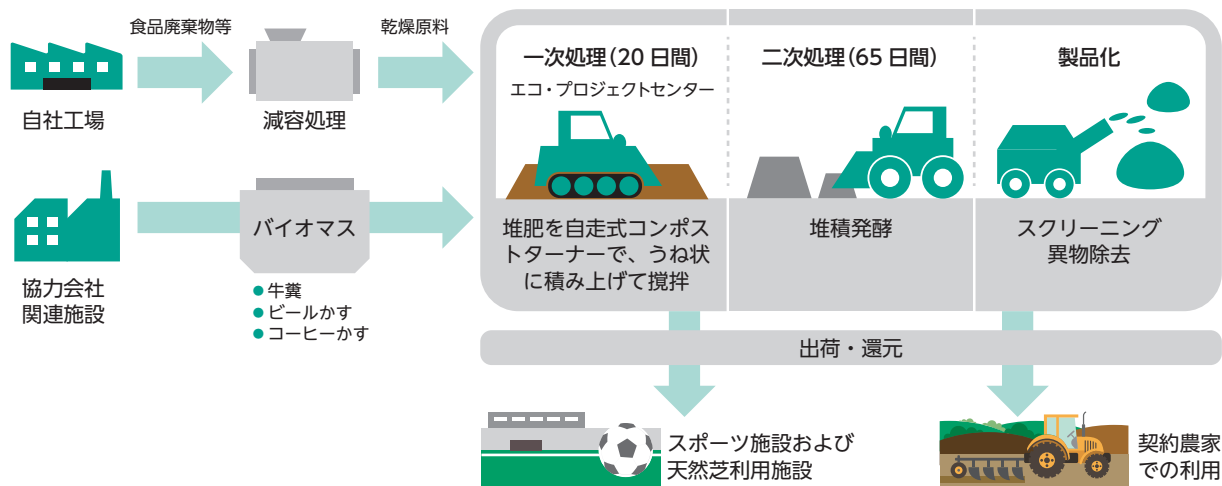
● 製造工程

食品循環資源リサイクルの中核となる米久エコ・プロジェクトセンターでは、自社工場にて減容処理された食品加工残渣（ざんさ）などの乾燥品と、牛糞、ビールかす、コーヒーかすなどの未利用有機資源（バイオマス）を利用した肥料（コンポストパワー／Compost Power）を生産しています。これらの肥料は、契約農家やスポーツ施設の芝生管理などに利用されています。



米久エコ・プロジェクトセンター

エコ・プロジェクトセンター乾燥工程





太陽光発電設備を導入

伊藤ハム米久グループでは、環境活動の取り組みの一環として太陽光発電設備を設置しています。伊藤ハム西宮工場では、地域の方々が環境問題を考えるきっかけとなることを願い JR 神戸線沿いの見通しの良い工場屋上南側にパネルを設置し、米久本社（物流センター）では、発電した電力全量を電気事業者に売電しています。

これからも施設の有効活用を図るとともに、自然環境に配慮した再生可能エネルギーの普及に努めていきます。



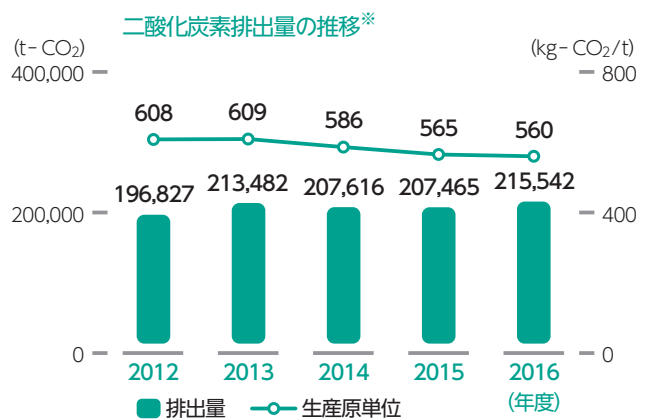
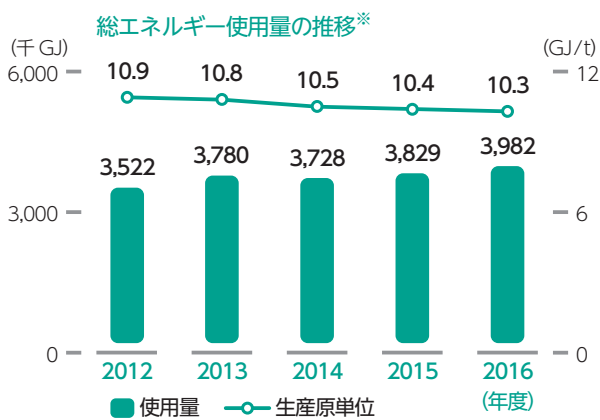
太陽光パネル（伊藤ハム西宮工場）



太陽光パネル（米久本社物流センター）

総エネルギー使用量・二酸化炭素排出量の推移

効率の良い冷凍機や変圧器、LED 照明への更新などにより、省エネルギーおよび二酸化炭素排出量削減を推進しています。



※対象範囲

(各工場)

伊藤ハム、伊藤ハムデイリー、伊藤ハムウエスト、浅草ハム、筑紫ファクトリー、ロイヤルデリカ、菊水、サンキョーミート、IHミートパッカー、IHミートソリューション、米久、米久かがやき、米久デリカフーズ、米久おいしい鶏

(各事務所)

伊藤ハム、伊藤ハムデイリー、伊藤ハムウエスト、伊藤ハム販売、伊藤ハムフードソリューション、伊藤ハムミート販売東、伊藤ハムミート販売西、アイエイチロジスティクスサービス

グループ各社の取り組み

Initiative of each Group Company

私たち伊藤ハム米久グループは積極的な取り組みをグループ各社で行っています。

確かな品質をお客様へ

毎日、工場の全アイテムを チェックしています

万全の品質管理体制のもと、製造される全アイテムを原料から製造工程、保存にいたるまで入念にチェックしています。



品質検査

お客様から頂いた貴重な ご意見を共有しています

お客様から頂いた商品の安全や品質に関わる情報を部門間で共有し、速やかに改善を進めるための、「品質保証連絡会」を定期的に開催しています。

きめ細やかな配慮を 心がけています

パッケージに大きく保存方法を表示するなど店頭に並んだその先の安全を呼びかけています。



保存表示一例

働きやすい職場環境を目指して

女性リーダー層の 育成に向けた取り組み

女性従業員の積極採用、女性従業員を対象とした研修、仕事と育児・介護などの両立支援、就業継続支援制度（ジョブリターン制度など）を実施しています。



女性マインドアップ研修

仕事と育児・介護との 両立支援を目指して

「育児休業者職場復帰支援プログラム（ハムママコミュニティ）」「短時間勤務制度」「時差勤務制度」など、さまざまな両立支援制度を整備しています。

「時短勤務制度を活用しメリハリをつけて働くことができています。今後は後輩たちにアドバイスができる存在になりたいです。」



矢野 亜伊子（営業）

女性の活躍推進に関する 行動計画を策定しました

産前・産後休業や育児休業中の従業員に対する継続的な情報提供・サポートの強化、女性が活躍できる環境づくりのための社内規定の整備、女性活用に関わる研修などを実施しています。

多様な人材育成の推進

新入社員を職場で計画的・ 重点的に育成する制度

新入社員・若手社員の能力を迅速に向上させ、早期かつ着実に即戦力となるよう育成するために、伊藤ハムグループでは、メンター制度を、米久グループでは、ブラザー・シスター制度を導入しています。

「職場と連携して、社員一人ひとりが仕事経験を通じて成長していくために、必要な能力開発やその一助となる支援を継続していきます。」



池田 実里（人事）

通信教育講座を開講し、 自己啓発の機会を作っています

受講料を補助するなど、従業員が専門的な知識を習得する機会を設けています。



通信教育講座のご案内

地域に根差した取り組み

ウイナー飾り切り教室を実施しています

小学生などを対象に、1本のウイナーからウサギやゾウ、ヒマワリなどの可愛い花や動物たちを作る飾り切り教室を実施しています。

会場内に歓声が湧き、毎回とても楽しんでいただいています。



飾り切り教室の見本

小中学校を訪問して職業講話を実施しています

小中学生を対象に主な商品や仕事内容について説明しています。講話後には、「商品がお店に並ぶまで、開発や製造、検査、営業、たくさんの人が関わっていることを初めて知った」などの感想をいただいています。



職業講話

自然豊かな環境を守る取り組み

富士山の保全活動を応援しています

2009年より、富士山の保全活動支援などを目的として、認定NPO法人富士山世界遺産国民会議が運営する富士山基金に寄付を行っています。



富士山基金贈呈式の様子

「こうべ森の学校」の森林ボランティア活動

市民・行政・企業が協働し、植樹や間伐といった森林の手入れはもちろんのこと、間伐材などの森の恵みを利用したログハウス、木工品の制作など、多様な活動を展開しています。



ボランティア活動の様子

より効率の良い機器への更新などで省エネルギーおよび二酸化炭素排出量削減を推進しています

効率の良い冷凍機や変圧器、LED照明への更新などにより、省エネルギーおよび二酸化炭素排出量削減を推進しています。



効率の良い冷凍機（伊藤ハム豊橋工場）

グループ各社の詳しい取り組みはこちら

- **伊藤ハム株式会社**
<http://www.itoham.co.jp/corporate/env/index.html>
- **米久株式会社**
<http://www.yonekyu.co.jp/company/csr/>

